



編集発行
 財団法人 不老会
 〒460-0008
 名古屋市中区栄
 2丁目10-19
 名古屋商工会議所内
 電話・FAX
 (052)203-4580
 ホームページ
<http://furo-kai.or.jp>

年頭のご挨拶

理事長 小田悦雄



新年あけましておめでとございます。
 会員の皆様には健やかに新年をお迎えになったこと、謹んでよろこび申し上げます。

新年の一月二十一日は不老会が創立された五十周年記念日で、感慨もひとしおです。

昨年十一月十五日には旧名古屋市民会館大ホールに於て、一千数百名の皆様のご来場を得て、大村

県知事、岩村県議会議長、河村名古屋市長、五大学を代表して濱口名古屋大学総長の皆様から、ご丁寧なご祝辞や鈴木政二代議士(相談役)の激励のご挨拶などいただき、盛大且つ意義深く創立五十周年集会を終えることができました。

五大学から「創立五十周年記念タオル」をいただき、既に全会員宛にお届けして、多くの会員の皆様から本部事務所に礼の手紙や

電話があり、心温まる思いです。尚、記念事業のモニユメントは既に献体の塔の一隅に建立され、五月に行う顕彰式当日お披露目をしたいと予定しております。

一連の記念事業にご支援をいただいた皆様に感謝すると共に、改めて「不老会創立五十周年の重み」に感動し、献体運動の明日への更なる精進を心に誓った次第です。さて、新年はどういう年になるのでしょうか。

誰しも「健康で安心して生活できるよい年でありたい」と思うのは、万人共有の願いだと考えます。しかしながら、国の内外には緊迫した政治課題が山積し、予断を許しません。

就中、国内の東北大地震による津波や原発事故の放射能被害は深刻で、当該地域の皆様の心情を察するときに、胸の痛む思いです。

是非新年には被災地復興の槌音が高く、被災者の皆様の生活に希

望の光が輝くよう、国の積極的な施策を切望する次第です。年初に当り、会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りしご挨拶とします。

賀正



皆様のご健康と、ご長寿を心よりお祈り申し上げます

平成二十四年元旦

医学のおはなし

解剖学の教員は、教育に加え
テーマを定めて医学研究を毎日
行っています。大学卒業の際に、
食事療法を専攻したかったのです
が、当時は治療法とは認められ
ていませんでした。ビタミンA
の研究で解剖学の博士号をいただ
き、二十歳から

健康を保つ「お灸の話」

藤田保健衛生大学 解剖学講座

教授 臼田 信光

研究し、肝炎・
肝臓・膵臓・糖
尿病の新規診
断・治療法開発

か再び迷ったのちに、鍼灸治療を
選びました。週一回の治療後には
筋肉痛が消え膝が伸び、歩けるよ
うになりました。

物忘れとともに関節痛は「老
化」の兆候です。重い測定装置を
運んで、突然に右膝に強い痛みを
覚え、足を引きずりました。本来
は外科を受診すべきですが、小学

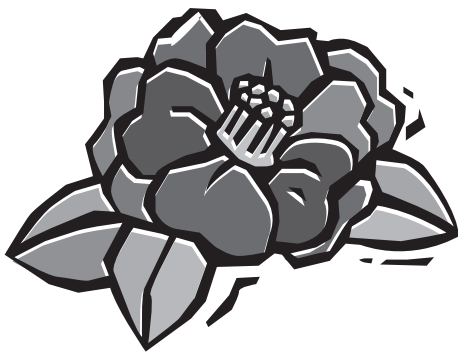
「鍼灸」は中国で四千年前に始
まり日本に伝来し、漢方とともに
独自の発展を遂げた日本の伝統医
療です。江戸時代までは漢方医に

校のときに両足にギブスをして二
年間外科に通った毎日が思い出さ
れ、まずは自分で治療を試みまし
た。通常は膝を安静にして、プー
ルで体重を掛けずに膝を伸ばす運
動を二ヶ月続けました。膝痛を庇
うためか、下肢全体が痛むように
なり膝が曲がったままで、歩行が
不自由になりました。外科に行く

よる治療が一般的でしたが、明治
政府さらには占領軍が鍼灸・漢方
をいったん禁じました。日本伝統
医療は、いわば代替医療になった
のです。「患者さんは楽になる。」
というものの、有効性について
は、科学として客観性が不十分と
されがちです。一方、正規医療で
ある近代西洋医学は、手術が必要
な疾患や感染症
では目を見張る
有効性がありま
す。世界保健機
構は、世界中の
国々で独特に発
展した伝統医療
の有効性を調査

し、両者の併用が望ましいとして
います。
「灸の脳科学」は、灸に対する
生体反応の物理化学指標を検出す
る試みです。不老会元副理事長
渡仲三先生（名古屋市立大学名誉
教授・藤田保健衛生大学客員教授）
が、「灸研究を一緒に行おう。」と

提案されました。分子を基盤とす
る西洋医学から陰陽説を根本にお
いた東洋医学への転換は、まさに
パラダイムシフトでした。栄養や
スポーツの健康維持における重要
性が分子レベルで科学的に示され
たのも、実は、やっとこの数年で
す。脳は高度な機能を担い、多く
の脳疾患は未だにブラックボック
スの中です。灸が脳に与える影響
を分子レベルで示し、脳の老化の
予防手段とすることを夢見て研究
を続けています。



財団法人不老会創立五十周年記念事業報告

「明日の医療の発展を願って

「医療と献体」と銘打った同記念事業は、十一月十五日(火)名古屋市の金山の中京大学文化市民会館オーロラホールに、千五百名の参加者を集めて盛大に開催された。

開会に先立ち不老会創立の原点となった愛知用水事業のドキュメンタリービデオが上映され、過去の水不足から今日の繁栄に至る足跡をかいま見て皆様にも感動して頂きました。



開場前長蛇の列となった中京大学文化市民会館



小田不老会理事長挨拶

不老会五十周年記念事業

「明日の医療の発展を願って

「医療と献体」

記念事業実行委員長

橋口安男

不老会創立五十周年記念式典は、小田理事長、五大学代表濱口名古屋大学総長の挨拶で始まり、不老会創立の原点となる愛知用水事業から手がけられた濱島名誉理



濱口名古屋大学総長

事長への感謝状贈呈がありました。次いで愛知県知事大村秀章氏を始め、来賓各位の祝辞をいただき、来賓のご紹介を以て式典を終了しました。

休憩後、帯津良一先生の講演をいただき、生きる喜びを享受するため、ホリスティック医療と言う新しい考え、即ち「病気の治療のみでなく人間丸ごと面倒を見る」ことをご自身の実践経過にユーモアをそえてお話し下さいました。



濱島名誉理事長への感謝状贈呈

続いて坂入姉妹によるミニコンサート「歌いつなごう!心のふるさと」で会場を埋めた千五百有余名の皆さんと、懐かしの唱歌を合唱して盛会裏に幕を閉じました。当日は好天に恵まれ、金山の中京大学文化市民会館でのセレモニーは参加各位のご好評を得ることが出来ました。これもひとえに役員をはじめ支部役員の御協力のたまものとは厚く感謝申し上げます。

不老会創立五十周年

記念事業に参加して

理事 近藤 弘子

中日新聞社と共催で準備を進めてきたこの日は、時間前から開場を待つ人の長蛇の列となった。

壇上に二十名の来賓を迎えての開会式では、主催者、五大学代表の挨拶、来賓祝辞等の中で印象的だったのは車椅子での濱島辰雄名誉理事長の九十五才の高齢にして立派な挨拶をされたことであつた。

久野庄太郎初代理事長と共に愛知用水工事に奔走し、不老会設立、その後の運営にも尽慮力された功績は甚大なもので感謝状を受ける



大村愛知県知事挨拶

胸中はいかばかりかと感動した。



1500人の大観衆

この後の「第一部」では、帯津良一医学博士による「からだと心、いきるよろこび」とのテーマで講演があつた。先生は東大医学部を卒業後、医師として活動する中で、局部的に対処する西洋医学の反省から生まれたホリスティック医学で、西洋医学に中国医学や代替療法を取り入れ、身体だけではなく、心やいのち、死など、その人全体にかかわっていく治療法を実践されている。

「第二部」では、ミニコンサー

ト「歌いつなごう！こころのふるさと」で、坂入姉妹の美しく澄んだ歌声での懐かしい数々の歌を聞くことができた。参加者と共に歌ったりして心癒される一時であつた。
一般の来場者にも不老会を周知していただくことができ、意義ある記念事業になったと思う。



帯津良一医学博士の講演

五十周年に思う

相談役 加藤 豊



会場を湧かせた河村名古屋市長

記念行事当日は曇り空であつたが、開場近くなるにつれて大勢の参加者で場内は熱気にあふれた。冒頭の小田理事長先生の挨拶は歯切れよく、情熱をこめて不老会の来し方、進む途を語られた。
名古屋大学総長濱口先生の挨拶に続いて愛知用水、不老会の生き証人、名誉理事長濱島辰雄先生に創立以来のご貢献に対して感謝状が贈られた。
九十五歳、車椅子ではあるが先生はしっかりした口調でお礼の言



美しい歌声を響かせた坂入姉妹

葉を述べられた。

来賓のご祝辞を戴いた後、講師
帯津先生の「からだと心、いきる
よろこび」のお話を戴いた。

心の持ち方が、いかに健康状態
を支配するかについて平易に笑い
を交えて説き示された。

その中で小生は「今日が最後と
思っ生きて生きる」ということに特に
「しかりしかり」と共感できた。

明日ありと

思っ心を捨てかねて

断捨離のみち いまだ遥けし

の日常だからである。



除幕式に参加された皆様

13日(火)の朝、献体の塔清掃後

雲ひとつ無い快晴となった12月

創立50周年記念 モニュメント除幕式

企画運営の方々、来賓の皆様、
参会の皆様には「深謝百遍」合掌

有意義な行事であった。

最後に、駆けつけられた名古屋
市長さんの河村節にはしめくり
として満場が湧いた。楽しくも又

続いてのミニコンサート、二羽の
白鳥が舞い遊ぶような坂入姉妹の
歌に、しばし童心に帰ったひとと
きであった。

に、不老会創立50周年記念モニュ
メント除幕式が行われた。小田理
事長、杉浦副理事長を始め、関係
理事、50周年記念事業検討委員会
の方々、清掃に参加された皆さん
と共に式典が執り行われた。



御神酒と塩で清めの儀式

除幕後、記念事業検討委員会の
橋口委員長から、本モニュメント
建立に到までの三年半にわたる検
討の経緯説明があり、小田理事長
の挨拶の後、御神酒と塩で清めが
行われた。陽の光に映える記念モ
ニュメントには献体の塔建立の経
緯と不老会の精神が刻み込まれて
いる。来年の顕彰式が正式な本モ
ニュメントのお披露目となる。

会員投稿

— 短歌 —

(五十音順)

○さいごまでたよりになるはわが
みのみ

おそはりしこいまそのほんばん

一宮市支部 入山 鈔

○茸狩に遅れ来る妻迷ふなど

棒立てシロの在り處示せり

碧海支部 鈴木 清美

— 俳句 —

○雪つりの松に縄張り美しき

一宮市支部 足立 祐子

○燕去ぬ鍵の小鈴の音すなり

岡崎支部 大島 翠木

○別院のゆかり坐禅の粥施行

東区支部 大塚 方子

○初電話 誰が癌かと問ひ返す

知多南部支部 川井 正彦

○受け継ぎし絆で囲む屠蘇の膳

大府東浦支部 工藤ゆたか

○大根葉凜と立ちたる寒さかな

尾北支部 棚橋 利郎

○平成の雪はストーブ背負ひ降る

飯田市 林 梅翁

おわび

不老五四一(十一月発行)

五ページ 会員投稿「短歌」

正) ○秋立つに水面遊げる月影を

空と見るかそれは虚しかり
碧海支部 鈴木 清美
誤りがありましたので訂正してお詫び申
上げます。